

第 1 回砺波市新庁舎整備検討委員会議事録（要旨）

【開催状況】

日 時：令和 6 年 5 月 3 0 日（木） 9：30～11：00

場 所：砺波市役所小ホール

出席者：

委員：老委員、大西委員(委員長)、堅田委員、小西委員、澤田委員、武田委員、橘委員
長谷川委員、堀田委員、水野カオル委員、水野桂子委員、水戸委員、米原委員
(欠) 米山委員

市：市長(挨拶)、企画総務部長 財政課長ほか事務局員

【関連資料】

- | | |
|------|---------------------|
| 資料 1 | 砺波市新庁舎整備検討委員会委員名簿 |
| 資料 2 | 砺波市新庁舎整備検討委員会設置要領 |
| 資料 3 | これまでの経過とこれからの体制 |
| 資料 4 | 砺波市庁舎整備に関する報告書【概要版】 |
| 資料 5 | これまでの取組 |
| 資料 6 | 新庁舎候補地について |
| 資料 7 | 候補地選定における検討課題について |

【会議内容】

- 1 開会
- 2 市長あいさつ（要旨）

委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。本庁舎は昭和 39 年建設で 60 年が経過し、老朽化により機能や維持管理面で非効率で、耐震性も低い状態にあります。

庁舎整備に関しは令和 2 年度庁内研究会を設けて以来、検討委員会や庁内研究会で検討を重ね、令和 5 年度には各種団体との意見交換、市民アンケート、サウンディング型市場調査などを行い、新しい場所や、必ずしも場所にはこだわらないというご意見を多くいただきました。

候補地については、必ずしも明確でない国道付近などの条件付の 5 つの場所を、以前より選定していました。こうした中、今年 2 月に県が「県庁活性化の取組み」として富山県花総合センターのあり方検討を進めるという発表がありました。国道に近接し、多くの市民から要望があるチューリップ公園に近接しているため、候補地へ加えることとし、この委員会で、具体的な候補地として、アクセス性や面積等を総合的に検討し、「現敷地」、チューリップ公園付近の「中村グラウンド」、そして、国道 359 号に隣接する「富山県花総合センター」の三つの候補地、そして、防災など基本的な考え方や求められる機能などについても忌憚のないご意見をいただき、整備に向け、早急に進めて参りたいと考えています。どうか、宜しくお願いいたします。

3 委員紹介

4 委員長選出

大西委員が委員長に選任、挨拶

砺波市新庁舎整備検討委員会というのは、大変重要な会議であり、重責であると感じています。新庁舎を建てるというのは、次世代だけでなく、更にその次の世代へ繋ぐことを考えていくことであり、将来像を画きながら、砺波市がどうなっていくのか考え、ご意見をいただければと思っています。先のことを創り出すクリエイティブな作業でもあり、それぞれの立場から、活発な会議となるようご協力をお願いします。

宜しくお願いいたします。

5 職務代理者指名

堀田委員を職務代理者に指名

6 協議・報告事項

(1)これまでの経過とこれからの体制について

(2)新庁舎候補地について

(3)その他 次回会議日程等

【以下、質疑、意見等】微妙

(委員)

アンケート結果では、駐車場が不足しているとの意見が多い。しかし、駐車場の不足から、単純に敷地規模を大きくすることには違和感がある。そのため、駐車場の観点から、3つの候補地を検討できる資料を提示して欲しい。また、3つの候補地を良く知らないため、敷地の状況、周辺道路の車の通行量など候補地の詳細が分かる資料も提示して欲しい。

(委員長)

1点目に3つの候補地の抽出基準に駐車場の観点がどう反映されているのか。

2点目に3つの候補地に違和感がないのか。

この2点について回答願います。

(事務局)

更に条件整理を行い、次回の委員会で提示します。

(委員)

駐車場についての続きになるが、来庁時の個人的な実感として、駐車場の不足よりも、1台あたりの幅が狭く駐車しにくいと感じている。

1点目に候補地条件を現在地と同程度20,000㎡とした理由を確認したい。この条件で候補地を抽出することは難しいと思うが、駐車場を立体化し、敷地規模を小さくする

方法もある。、そのため、駐車場がどれくらい必要なかを検討しなければ、敷地規模が検討できないのではないかと。また、D X推進の取組による来庁者数の減少予測と駐車場が現在不足していることの関係については別に整理する必要があると思う。

2点目に候補地条件を市街化地域に隣接するとした根拠を確認したい。

3点目に候補地の富山県花総合センターについて、早期に新庁舎を整備する観点から取得見込みについて確認したい。

(委員長)

1点目にどの程度の駐車場を想定して、候補地の敷地規模を設定としたのか。

2点目に新庁舎が市街化地域に隣接する必要性の根拠は何か。

3点目に富山県花総合センターについては早期取得が可能なのか。

この3点について回答願います。

(事務局)

1点目の駐車場について、現庁舎駐車場のライン幅については、狭いと感じる2.2m幅と通常幅の2.5mの駐車場が混在している。駐車場の不足については、庁舎内でこのような会合が行われた場合について検証済みであり、2つ以上の会合が同時に行われると駐車場が不足する結果となっている。次回の委員会で詳細資料を提示します。また、D X推進の取組による来庁者数の減少予測については取組を行っている最中であり、もう少し時間を頂きたい。

2点目の市街化地域に隣接する必要性を条件とした根拠として、令和3年度の検討委員会の際、新たな場所に新庁舎が移転した場合、その周辺に新たなまちが開発され良いのではないかと意見があった。そして、昭和40～50年代にはそのような開発があったと聞いている。しかし、これからの時代、仮に新庁舎を新たな場所で整備しても、その周辺に新たなまちの開発は起こらないと考えている。また、アンケート結果からチューリップ公園周辺の既存公共施設の機能を一部利用しながら、新庁舎をコンパクトに整備してはどうかという意見も多くあったため、候補地を市街地地域または市街地地域に隣接する条件とした。

3点目の富山県花総合センターについては、2月に県よりあり方を今後検討すると発表があり、今年度中に結果を公表すると伺っている。県には富山県花総合センターを新庁舎の候補地として検討する旨を伝えているが、県のあり方検討の結果を見守りたい。

(委員長)

新庁舎を市街地地域から離れた位置に整備した場合、周辺整備にも多くのコストが発生することも想定される。そのため、市街地地域または市街地地域に隣接するように新庁舎を整備することで、全体コストを削減することにつながると思われる。

(委員)

個人的には、駐車場はD Xが進むことで来庁者が減少し、現在より必要性がなくなるの

ではないかと思う。

ライフサイクルコストについて、想定される建設費の3～5倍の費用が必要と資料に記載があるので、期間について確認したい。また、中村グラウンドと富山県花総合センターの土地買収費用が建設費に対してどの程度の割合を占める想定となるのか確認したい。
(事務局)

ライフサイクルコストは60年間を想定し、解体費まで含んでいる。一般論として、建物が大きいと、運営費用も大きくなるため、ライフサイクルコストは増加する。中村グラウンドと富山県花総合センターの敷地買収費用については、次回の委員会での提示を検討したい。

(委員長)

一般論として建物が大きいと、運営コストである光熱費等が増える。そういった費用も見込んだものがライフサイクルコストである。必要以上に建物が大きいと、ライフサイクルコストが増えるため、できるだけコンパクトに計画したいという方針が基本理念に提案されている。

用地の取得についての可否は地権者次第となるが、中村グラウンドのように複数の地権者と交渉しなければいけない場合、手続きに時間がかかることも資料に示されている。

(委員)

アンケートを確認すると当たり前のことだが、災害対応など安全への要望が上位になっている。一方、不便な事項として市民の休憩場が無い、市民活動の場がないとの意見もある。そこで、新庁舎には、美しいチューリップ公園の見えるフリースペース、ワークスペース、カフェ、託児所、イベントスペースがあれば、市民や市外の方も来庁する風通しの良い市役所になるのではないかと思う。そのため、文化会館、チューリップ公園、砺波駅が近い候補地が今後の可能性を考えると良いのではないか。アンケートに関しては、もう少し細かい内容も把握できるようになっていれば良かったと思った。

その他、商工会議所青年部の意見を紹介すると、庁舎整備の基本理念には当たり前の内容が設定され、砺波らしさが感じられない。そのため、候補地を選定する際に戸惑ってしまったり、アンケートで建設地にこだわらないとの意見が多くなったのではないか。また、市役所を箱物として考えると、東京オリンピックや大阪万博と同様にレガシーが重要なポイントになると思うので、砺波市の未来を検討し、良いレガシーとなるように基本理念を設定してもらいたいとの意見があった。

(委員長)

今の意見は、候補地に市役所を設置することで、どのような利用方法が可能なのか想定をしてみてもどうかという提案としても受け止めた。基本理念は、市役所に必要な機能を主に提案している。そのため、砺波市らしさがなく、議論が深まらないと言われればそうかもしれないが、機能に特化した考え方も良いのではないか。事務局からも回答願います。

(事務局)

アンケートについては、自由記述の部分を分析して次回の委員会で提示します。

基本理念については、当たり前の内容が設定されているが、この理念に添って何をしていくのが重要と認識している。

新庁舎にいろいろなスペースを設けることとレガシーとの関係については、他の公共施設も建設時は、当時期待される機能を盛り込んで建設されたが、現在レガシーとなっているかどうかを考えると、必ずしもそうではない施設もあるため、周辺施設の状況を確認しながら検討したい。

(委員)

まちづくりの観点は大切だと思う。チューリップ公園周辺であれば、公園、図書館、美術館、観光協会との関係を考えて、どういった機能が新庁舎にあれば良いのか、一体で考える必要がある。また、どの条件を優先とするのかという視点も大切だと思う。個人的には、事業費が市民の関心事として高いのではないかと考えている。そのため、仮に富山県花総合センターに候補地が決まった場合、現在地の売却が検討できる事や新庁舎建設がまだ数年後のため、物価も考慮し、金額に幅をもたせて事業費を示す必要があると思う。

(委員)

まちづくりの観点は大切だと思う。中心部に何でも集めれば良いわけではないが、城端線も存続することになったため、仮にチューリップ公園周辺に駅ができた場合、そこからのにぎわい創出も期待できる。人口減少により、これからは、コンパクトなまちづくりを考えていかないといけないと感じている。

(委員長)

新庁舎周辺のエリアマネジメントを今後検討する必要がある。まちづくりの全体ビジョンから、検討するエリアで、何ができるのか、また何をすべきかを検討する必要がある。そして、場所が決まり、具体的な検討が必要となれば、更に課題を明らかにするために、グループインタビューを検討しても良いのではないかな。また、次回以降は、アンケートの自由記述欄もしっかり確認し、議論していきたい。

本日は、3つの候補地で検討を進めることを概ね了解頂けたものと理解している。また、基本理念と方針については、今後、必要に応じて追加しなければいけない事項、再検討しなければいけない事項も出てくると思うが、大きな異論はなかったと理解している。